

〈ニュース抄録〉 再びマイナスに／1 月の実質賃金

厚生労働省が3月10日に発表した毎月勤労統計調査によると、物価変動の影響を加味した1月の実質賃金（速報）は前年同月比1・8％減となった。昨年10月以来のマイナス。

名目賃金に当たる現金給与総額は1人当たり平均29万5505円で、前年同月比2・8％の増となった。37カ月連続のプラスだ。一方、1月の消費者物価指数（帰属家賃を除く総合）は前月比0・5ポイント増の4・7％上昇となり、実質ではマイナスとなった。雇用形態別でみると、一般労働者の現金給与総額は同2・7％増の37万9253円、パート労働者は同4・5％増の時給1397円となっている。

「海員だより」